

目次

序論

第1章 「末っ子が成功する」物語 —— サンドリヨン

第1節 サロンの確立とお伽噺

第2節 『フィネット・サンドロン』

第3節 『サンドリヨンまたは小さなガラスの靴』

第4節 サンドリヨンに憧れた女性たち

第2章 「姉たちが不幸になる」物語

—— 美女と野獣とグリム童話

第1節 賢明な家庭教師の登場

第2節 夫人の想い

第3節 グリム兄弟の登場

第4節 言葉を失った女性たち

第3章 「長女が成功する」物語

—— 『魔法使いハウルと火の悪魔』

第1節 長女のジンクス

第2節 悪役として登場する姉

第3節 ソフィーにかけられた呪い

結論

参考文献

概要

多くの童話や児童文学において、なぜ「長女は成功しない」のであろうか。末っ子が主人公として成功し、なぜ「長女は成功しない」のかという疑問を抱きながら、その「あたりまえ」を否定する作品『魔法使いハウルと火の悪魔』を中心に、幾つかの観点から考察を試みた。例外的に「長女が成功する」作品『魔法使いハウルと火の悪魔』を分析・考察するにあたり、シャルル・ペロー『サンドリヨンまたは小さなガラスの靴』とポーモン夫人『美女と野獣』、グリム兄弟『灰かぶり』をあげた。本論文で明らかにしたいテーマは

三つである。第一に、なぜ「長女は成功しない」のか。第二に、なぜ「末っ子は出世する」のか。第三に、姉妹の描かれ方は、心理・教育と関連性があるのかである。童話・お伽噺・児童文学に描かれる姉妹像の典型は、教育的な側面と心理的な側面の二つの要素が融合した結果として生まれ、今なお根強く残る潜在意識であるという仮説のもとに、三姉妹の描かれ方が時代を経てどのように変化したか章を追って紐解いていく。

一言コメント

大好きなファンタジーの世界を通して卒論を書くことができ、とても楽しかったです。童心にかえるようなワクワクする本を一冊でも多く見つけることが卒論執筆への近道だと思います。

ブックマラソンおすすめの一冊

J.オースティン
『高慢と偏見』岩波文庫